

スイートコーン管理情報 No.2

令和8年5月 JA 福岡京築・京築普及指導センター

現在の状況

生育状況：5月12日時点では、1型、2型、3型で雌穂の絹糸抽出が見られ、1型は5月下旬～6月頭に収穫開始の見込み。4型および直播A型では、雄穂が出穂し、間もなく雌穂が出穂となる状況。全体的に大きな霜害や生育被害等は見られていない状況です。

病害虫発生状況：圃場でカメムシ類が多く散見されます。収穫期の防除を徹底しましょう。アワノメイガのフェロモントラップ調査（椎田）では 73頭（4月27日～5月12日時点）が捕虫されています。昨年度よりも捕虫数が多くなっている状況です。

気象情報：九州北部地方の1か月予報では、平均気温は高く、降水量は平年並みの予報となっています。生育に合わせた管理・適期収穫を心がけましょう。

1. 害虫防除

薬剤は一般的に、散布直後に降雨があると効果が低下します。天候を見ながら適切に防除を実施しましょう。

薬剤の効果を高めるため、**展着剤（ブレイクスルー等）**の加用をお勧めします。

◇アブラムシ類対策

麦の収穫時期頃（大麦5/15頃、小麦5/25頃）から発生が増加します。アブラムシ類は雄穂、雌穂軸や雌穂の外皮に発生が多いため、注意しましょう。多発した場合は1回の農薬散布で抑えることが難しいので、5～7日間隔で2回程度連続防除を行ってください。



図1：アブラムシ類
発生株



図2：アブラムシ類
被害株

◇アワノメイガ・オオタバコガ対策

雄穂の白変・折れ等が見られたら、食入している可能性があります。雄穂出穂直前・雌穂出穂期等を中心に薬剤防除を行いましょ。フェロモントラップ調査によると、今年は5/9から一気に増加しているので防除の徹底をお願いします。



図3：アワノメイガが食入した雄穂



図4：アワノメイガが食入した雌穂

◇カメムシ類対策

登録のある農薬で防除を行いましょ。また、雑草のある場所での発生が多いため、圃場周辺の除草も徹底しましょ。



図5：カメムシ類発生株



図6：カメムシ類が吸汁した雌穂

3. 追肥・かん水

十分な生育と受粉を安定させるため、早めの追肥とかん水を心がけましょ。

追肥：雄穂出穂期に、窒素成分で 6.4kg/10a 例：追肥化成 34 号を 40 kg/10a

雌穂出穂期に、窒素成分で 3.2kg/10a 例：追肥化成 34 号を 20 kg/10a

かん水：九州北部地方の向こう1か月の気象予報では、気温が高い予報が出ていますので、土壌の水分状態に注意し、乾燥している場合は畝間かん水を実施してください。特に、雌穂出穂から受精を完了するまでの7～14日間は乾燥しないように注意しましょ。→この時期の乾燥等のストレスは、先端不稔や子実充実不足につながります！

●防除薬剤事例

- ・使用時期に注意して使用する農薬を決定しましょう。

防除時期	薬剤名	適用害虫	希釈倍率	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	RACコード	使用方法
雄穂出穂期	パダン粒剤4	アワノメイガ	6kg/10a	収穫7日前	2回以内	I:14	株の上から均一に散粒
雌穂出穂期	トランスフォームフロアブル	アブラムシ類	2000倍	収穫前日	3回以内	I:4C	散布
	アクセルフロアブル	アワノメイガ	1000～2000倍	収穫前日	3回以内	I:22B	散布
雌穂出穂期の14日後	スタークル顆粒水溶剤	アブラムシ類 カメムシ類	2000倍	収穫前日	3回以内	I:4A	散布
	グレーシア乳剤	ハダニ類	2000～3000倍	収穫前日	2回以内	I:30	散布
発生に応じて	モスピラン顆粒水溶剤	アブラムシ類	2000～4000倍	収穫前日	3回以内	I:4A	散布
	ディアナSC	アワノメイガ オオタバコガ	2500～5000倍	収穫前日	2回以内	I:5	散布
	ヨーバルフロアブル	アワノメイガ オオタバコガ	5000倍	収穫前日	3回以内	I:28	散布
	ウララDF	アブラムシ類	2000～4000倍	収穫3日前	2回以内	I:29	散布
	トレボン乳剤	アワノメイガ	1000倍	収穫7日前	4回以内	I:3(A)	散布
	ベネビアOD	アブラムシ類	2000倍	収穫前日	3回以内	I:28	散布
		アワノメイガ オオタバコガ	2000～4000倍				
スミチオン乳剤	アワノメイガ カメムシ類	1000倍	収穫7日前	4回以内	I:1(B)	散布	

※ 2026年5月8日登録反映 散布前に必ずラベルを確認しましょう

STOP 熱中症事故！



法改正で熱中症対策が義務化されました。